

# 平成 27 年度「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」

## 「学校・家庭・地域の連携協力推進事業」

### 取組事業名

- ・放課後子ども教室事業
- ・学校支援地域本部事業
- ・家庭教育支援基盤形成事業

### 岩手県久慈市

### 学校名

市内全小中学校（小学校 15 校、中学校 8 校）

※該当する内容に○

活動内容	学校支援	学習支援	部活動指導	美化・環境整備	登下校指導	学校行事・その他
		○	○	○	○	○
	放課後等支援	学習支援	体験・交流活動	遊び・スポーツ	学童クラブとの連携	その他
		○	○	○	○	○
	学校と地域の協働学習	復興学習	防災教育	伝統文化・芸能	職業体験・キャリア教育	イベント・行事・その他
家庭教育支援	家庭教育講座	親子参加行事	サロン・相談対応	家庭訪問相談	その他	
	○	○	○		○	
地域課題に応じた学習	高齢者支援	心のケア・健康管理	生活再建・地域づくり	地域人材育成	その他	

### 取組概要

#### 【放課後子ども教室推進事業】

放課後や週末等における地域の子もたちの安全・安心な居場所を確保し、地域の多くの大人の参画を得て、子どもたちに様々な体験・交流・学習活動の機会を提供し、子どもたちの社会性、自主性、創造性を育むとともに、地域の子もたちと大人との交流による地域コミュニティの充実を図る。

#### 【学校支援地域本部事業】

さまざまな資質を有する地域住民の参画を得て、学校が抱える課題解決や子供たちの学習環境の整備・充実をはかり、様々な学習機会を提供するなど、学校の要望に応じた支援を提供する。

#### 【家庭教育支援基盤形成事業】

##### ○育児講座

親子のふれあい、ママケア（赤ちゃんとのスキンシップを通して親子の心のケアをする）を、食育等を通じて、子育てやしつけなど家庭教育について考える機会を提供し、家庭の教育力の再生を図る。

- （1）講座内容：親子遊び、ママケア、食育など
- （2）運営方式：講義方式、実践など

##### ○学童期子育て講座

家庭教育に関心の少ない親なども含め、より多くの親に働きかけ、子育てやしつけなど家庭教育について考える機会を提供し、家庭の教育力の再生を図る。

- （1）講座内容：あいさつ、基本的な生活習慣などのしつけ、自立心の育成、親子のふれあい、食育、豊かな心、思いやりの育成など
- （2）運営方式：講義方式やワークショップなど

##### ○思春期子育て講座

思春期における子供の心と体の発達や、深刻化する青少年の問題行動について、対処方法や子育てについて考える機会を提供し、家庭の教育力の再生を図る。

- （1）講座内容：思春期の子供の心と体の変化、思春期の子供との接し方、子供を取り巻く環境、人と関わる力の育成など
- （2）運営方式：講義方式やワークショップなど

# 平成 27 年度「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」

## 事業成果

### 【放課後子ども教室推進事業】

放課後の安全・安心な居場所として定着し、創作や自由遊びをする前に宿題を終わらせるなど、学習が習慣化されてきている。各種活動においては、高学年が低学年に教えるなど異学年と交流しながら創意工夫を凝らして取り組む姿が見られた。サポーターや職員が協力し特技や地域の特色を生かした活動が実施できた。

○子どもたちが元気に活動しており、その姿を見るとこちらも元気がもらえる。サポーターをやったよかった。(サポーター)

○何年たっても子どもたちとの接し方は難しいし、最近は言うことを聞かない子や言葉遣いが悪い子が増えている気がする。とはいえ、学校から帰ってきて息抜きの部分もあると思われるので、バランスを考えながら進めていく必要がある。(サポーター)

○H27 アンケート調査「放課後子ども教室によって地域のつながりが深まった(かなりそう思う、そう思う)と回答した子・親の割合 87%」

「友達が増えた(かなりそう思う、そう思う)と回答した子・親の割合 84%」

「学習のやり方がわかってきた(かなりそう思う、そう思う)と回答した子の割合 79%」

### 【学校支援地域本部事業】

本事業で地域コーディネーターを設置していることで、地域と学校の協力体制がスムーズになり、地域の住民や団体がボランティアなどで学校に入ってくれる機会が増えた。その結果、地域と子ども、学校の関わり方や繋がりが深まってきている。

○休み時間にボランティアさんから折り紙で手裏剣の折り方を教えてもらってとってもうれしかった。

(1年児童)

○初めての活動でなかなか計画通りに進まないこともあったが、ボランティアの方から「生徒と一緒に作業ができて楽しい時間でした。」との声が寄せられ、成果があったものと感じている。学校と地域とのつながりが今後も深まることを願う。(地域コーディネーター)

○H27 アンケート調査「地域とのつながりが深まった(かなりそう思う、そう思う)と回答した子・親の割合 91%」

### 【家庭教育支援基盤形成事業】

育児、学童期、思春期と対象を細分化することで、それぞれのニーズに合った講師を選んで派遣できるため、子どもだけでなく保護者の悩みや疑問解決の一助となっている。親子の心と体の成長に合わせた講演であり、学校や家庭内での接し方に直結した事業を実施している。



## 課題と今後の取組

### 【放課後子ども教室推進事業】

○参加者(子ども、サポーターなど)の減少や場所等により、活動内容が限られてくるので、今後の参加者確保や活動内容に工夫が必要である。また、早く遊びや活動に取り掛かりたいがために宿題が適当になることもあるのできちんと指導したい。

○サポーターの役割を明確にしてほしい。どこまで踏み込んで関われるか。

### 【学校支援地域本部事業】

○コーディネーターと学校の情報の交換、共有を密にして、児童の学習がより豊かになるよう、地域の情報収集を積極的に行っていきたい。

○ボランティアに参加してくれる地域の人材が減少してきているので、少しでも多くの人に参加してもらえるよう周知に工夫が必要。

### 【家庭教育支援基盤形成事業】

○講師の選考について、長く同じ人に依頼している講座もあるので、マンネリ化を防ぐ意味でも新規の講師を探すことも大事。

○学校で行う親子対象の事業については、保護者の参加率が低いので参加しやすくなるように周知方法に工夫が必要。